

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270135140		
法人名	社会福祉法人 長崎厚生福祉団		
事業所名	グループホーム鶴舞苑Ⅱ		
所在地	長崎県長崎市大谷町418-1		
自己評価作成日	平成26年1月7日	評価結果市町村受理日	平成26年5月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	平成26年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所内はバリアフリーに配慮し、利用者様同士の会話も弾むような明るく開放感のある共有スペースがある。季節に応じて外出活動を計画したり、併設のデイサービスでのイベントにも参加しグループホーム内だけでなく他者との交流が多く持てるような支援をしている。また、職員はセンター方式を用いて利用者の生活歴やその人らしさを理解できるように日々対応している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は稲佐山の中腹に位置し、眺望に恵まれた環境にある。法人内5事業所が同じ敷地内に位置しており、法人内で組織する学習委員会は一年間の研修計画を立て、同じ研修を4回行うことで全職員が受講でき、共通理解を図っている。また、介護教室の開催や老人会連合会への出席など地域への働き掛けが始まっている。夜間帯も他の部署に職員がいる安心感があり、災害時など協力しあえることも5事業所が連携しているメリットである。理念である「笑い声のきこえる ぬくもりのある我が家を」に沿って、利用者の快適な生活を支援するため、ケアチェック表、個人記録、介護日誌、申し送りノートなど何重にも記録し職員間で共有する仕組みがある。我が家にいるようにストレスをためないよう利用者の生活リズムに合わせており、理念が具現化している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当グループホームの理念「ぬくもりのある我が家」に基づき、笑顔で安心して生活していただけるような環境作りに努めている。	理念は「笑い声のきこえる ぬくもりのある我が家」である。我が家にいる時の様に利用者がストレスを溜めず過ごせるよう、家族にも以前の生活を聞きながら本人本位の生活リズムに合わせて支援している。利用者がリビングで過ごすため、快適になるようソファを新調している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方や実習生の受け入れ、各種イベントへの参加により交流を行っている。	2階のデイケアを会場に5つの関連施設が合同で様々なイベントを月に1度開催し、近隣住民も含め200名程参加している。地域に向けて事業所の事をより理解してもらう取組みとして介護教室を来月開催する予定である。また福田地区老人連絡会に参加し、事業所の説明も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや実習生を受け入れて利用者様と触れ合ってもらいながら、理解していただけるように職員間で考えながら対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方・行政の方・ご家族の方からのご意見を伺いながらサービスの質の向上に努めている。	2か月に1度、規程のメンバーで行っている。自治会長から地域の夏祭りや学校行事等の案内があり、利用者の様子を見ながら参加している。会議で出た「面会に来た人の名前を覚えて欲しい」という家族の意見にもすぐ対応しており、会議で出た内容をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じてご相談させていただいている。	母体法人が西部地域包括支援センター業務を受託し、運営しているため行政とのやり取りは多い。9月からは消防の件で行政から訪問がある。事業所は事故報告や認定更新の際に連絡や確認を取り、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修や勉強会にて学び、当グループホームでは身体拘束は行っていない。	法人内の学習委員会が年間研修計画を策定し、年1回、全職員が虐待に関する研修を受講している。全職員が参加出来るよう同じ内容の研修を日をずらして4回行い、必ず参加出来るよう工夫している。声の大きさや言葉掛け等も全職員で共有し支援に活かしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修や勉強会にて学び、職員の意識を高め防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内外の研修にて学び、必要に応じて活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には重要事項説明を時間をかけて行っているが、それでも不安に思われることがあればいつでもお伺いしお答えするようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にはご家族とお話する時間を作るよう心掛けており、ご意見やご要望をお聞きし職員間で話し合い改善すべき点は改善するよう努めている。	面会時や電話などで話す機会を作り、要望を聞き取っている。「歩かせて欲しい」という要望があり、検討し、体操や散歩などを取り入れ反映している例がある。又、家族が利用者のために持って来た物が異食に繋がる可能性があった際には説明をして同意を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回職員ミーティングを行い、意見を出し合っている。	毎月の職員ミーティングで職員は意見や提案を表出し、備品購入など反映している。個人的な希望休や勤務体系の要望にも沿うよう配慮している。年に2回、個人面談を実施しており、それ以外にも随時施設長に相談できる雰囲気である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に関しての研修があり、職員一人一人のスキルアップが図れるようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会や勉強会への参加が出来るように配慮されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所からの見学の受け入れは行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人にお会いして不安な点やご要望をお伺いし、安心していただけるような説明を行うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームへ来苑していただき、生活の様子を観察していただいたり不安な事や疑問に思うことなども傾聴しながら対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族が何を必要とされているのかを聴き取りながら、話し合いを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で利用者様が楽しく過ごしていただけるように対話し、生活をともにする者としての関係を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の想いやご事情を理解し、常にご相談しながら協力していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた時などは居室にてゆっくり過ごしていただくなど、大切にしてきた関係を継続していけるように努めている。	家族や友人、生徒が面会に訪れている。外泊に出掛ける利用者や定期的に生まれ育った場所に家族と共に出掛けている利用者がある。息子夫婦に手紙を出すため職員が支援するなど、利用者の馴染みの人や場との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士、互いに出ることを分担するなど助け合って生活していただいている。安全面での配慮はしっかりと行うよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所になった利用者様やご家族も来苑していただけるように声掛け等を行い関係の維持に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でその人らしさを尊重し、無理強いしないようにしている。	日頃の会話から意向を聞き取り、記録し職員間で情報を共有している。意思疎通の困難な利用者が日によって単語を発することがあるため、職員は聞き逃さないよう気を付けている。失語症の利用者にはジェスチャーや表情から読み取るよう努めており、家族や以前利用していた事業所に尋ねることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用し、生活歴等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックやコミュニケーションの中で把握できることは申し送りノート等を通じて職員間で共有するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活でのご本人の言葉やご家族のご要望、体調について医療機関に相談した時にミーティング(モニタリング)を行い、意見が反映された介護計画を作成している。	利用者には直接希望を聞き、家族は訪問時等に要望を聞き取り介護計画に反映している。担当職員が計画と日々の実践状況がわかるシートを作成し、評価を行い見直しに役立てている。利用者によっては24時間シートを使用して状況を把握している。ただし、長期短期の計画がいずれも6ヶ月であり、記録方法も職員によって異なっている。	長期計画を達成するための短期計画を立て、更に日々の目標を明確に示すことを期待したい。また、利用者の発する言葉や状況などの記録方法について、職員間で統一することが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケアチェックや介護日誌や申し送りノートへ記入し、職員間で情報を共有するようにしている。また3ヶ月に1度モニタリングを行い、プランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況に応じて通院介助などの支援を行っている。時々、買物にも同行してもらい食品等を選んでいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	参加可能であれば利用者様にも声掛けを行い、交流を図れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に囑託医による往診を行い、必要に応じてかかりつけ医の受診対応するなどして適切な医療を受けられるように支援している。	従来のかかりつけ医の受診継続は家族や職員が同行し支援している。また、利用開始時に本人・家族の同意を得て、事業所の担当医に変更することもある。同法人5施設で歯科や皮膚科等の専門医の受診できる体制を整備しており、利用者が受診している。夜間の急変時は専用のチャート図を基に職員は対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回往診時に日々の健康状態を報告し、利用者様に変化が見られる場合は必要に応じて都度相談・連絡をするようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にはお互いにサマリーを交換し情報の共有を行う。入院中も定期的に面会し、利用者様、ご家族の状況をお伺いすると共にソーシャルワーカーや医師・看護師との相談・情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には、ご家族の意向も考えながら事業所として出来る事と出来ない事を見極め取り組むようにしている。	事業所は看取り行わないこととしており、「重度化した場合における対応に係る指針」を基に、契約時に本人・家族に説明している。重度化の状態になった場合は、利用者の状態に応じて法人内別施設への移行を含め、家族と話し合い意向に沿って対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、研修や勉強会を通じて学び備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施しており、災害に対する意識を高めるよう努めている。	今年度は9月から毎月消防訓練を計画し、消火器設置場所の確認や漏電を出火元とした避難訓練を行っている。また建物内5施設合同の訓練は夜間想定で行っている。ただし、利用者は参加しているものの、自治会や近隣住民の参加はなく、夜間災害時の避難誘導に不安な職員もいる。	夜間の災害に対して備えるために、夜間想定訓練を全職員が回数多く体験できるよう、回数を増やすなどの検討を期待したい。また、災害時は近隣住民の協力を得る事ができると考え、協力体制の構築へ取り組むことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様のお気持ちや考えに共感、受容しひとつひとつの言葉掛けにきを配るように努めている。	利用者の尊厳を重視した言葉掛けに努めている。要望や希望は仕草から察知して支援している。トイレや入浴への誘導は別の言葉を用いるなど配慮している。職員は守秘義務の誓約書を提出し、情報漏えいに関する注意事項は新人だけでなくベテラン職員にも説明している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より話しやすい雰囲気や環境作りを心がけ、しっかりと想いを受け止められるような支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間は決まっているが、利用者様の気分に合わせて、その時大切にすべきことを優先的に取り組めるよう一緒に生活している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に整容や服選びを行い、楽しみながら選択されている。カットもご本人の好みに合わせておられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様間で買い物・調理・盛り付け・配膳・片付けに至るまで出来る部分を分担して行っている。	利用開始時に嗜好を聞き取り、嫌いなものは出さないよう配慮している。献立は利用者の好みや希望を反映している。食材の買い出しには利用者も数名一緒に出掛けており、下膳や野菜の下ごしらえを手伝う利用者もいる。正月はお節やお屠蘇、雛祭りにはちらし寿司など季節を楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事摂取量と摂水量を記録し、把握できるよう努めている。ご利用者の状態に応じ、提供形態の工夫(ミキサー食)を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアの声掛け、または必要に応じてお手伝いを行っている。夜間は義歯を洗浄剤に浸け、口腔内の衛生を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや生活習慣を把握し出来るように記録し、定時誘導をするようにしてトイレでの排泄が継続できるように支援している。	日中は多くの利用者がリハビリパンツで過ごしており、体調によって布パンツを使用している。排泄パターンをケアチェックに記録し、変化があった場合は介護記録にも記している。リハビリパンツから布パンツとパッドに改善した例もある。夜間はリハビリパンツや大き目のパッドで対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や施設内の散策など適度に体を動かす時間を設けたり、水分量1ℓを目安として摂取を促したりしている。また食事も残食が少なくなるように声掛けし便秘予防の働きかけを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴準備を整え、当日の体調を見ながら声掛けを行っている。	毎日、入浴を準備し、午前・午後に関週2回の入浴を支援している。希望があれば毎日の入浴も可能である。拒否の場合はシャワーから始めて入浴剤を使って誘導するなど工夫している。1対1で会話しながら入浴を楽しめるよう支援している。今後、入浴の回数を増やすには職員数の確保等が課題である。	週2回の入浴回数を増やし、利用者の清潔保持、1対1で会話する時間の増加に繋がることを期待したい。職員数の確保だけでなく、工夫検討が望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	横になって休んだり、趣味活動に取り組めるように居室にて過ごしていただく時間も大事にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で服薬に関する情報共有が出来るようにチェック表を使ったり、成分についてもファイルで服薬中のものが確認出来るような状態にしてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の得意・不得意を自然な役割分担にて安全に取り組めるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事を計画したり、ご家族対応での外出や個別の買い物も対応できるように支援している。	天気の良い日は敷地内を散歩している。また建物内で月に1回コンビニの出張販売があり、利用者の楽しみとなっている。初詣や花見など以前に比べ外出の機会が増えている。全員で外食を兼ねた桜の花見に出掛けたり、家族の協力を得て、受診後に食事をするなど戸外へ出掛けるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内では個人で現金を所持せず立替金としてお預かりしているが、買い物へ出掛けた際には個人で支払いが出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に添って、電話での会話を楽しんでいただいたり手紙のやり取りが出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光や音の調整などにも配慮し、落ち着いた空間作りを心がけている。また、季節の花を活けたり植物を育てたりしている。	一日を過ごすリビングは広々としており、利用者の動線を遮る物がないよう配慮している。リビングのテーブルに季節の花を飾り、ベランダのプランターに花を育てている。玄関脇にある水槽にはグッピーが泳ぎ、利用者が餌をやり飼育しているなど、家庭的な落ち着いた空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに自由に座って頂き会話を楽しんでいただいている。体操やレクリエーションにも自然と参加出来るような雰囲気を作り楽しんでいただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に居室内への持ち込み制限は設けておらず、筆筒や椅子や装飾品など、ご本人とご家族が相談の上持参された物を設置している。	居室への持ち込みに関する制限はない。利用者ごとにお気に入りの大きなぬいぐるみや自宅で使っていた馴染みのタンス、時計、写真など家族と相談しながら配置しており、寛げる居室となっている。掃除や換気は職員が行い、清潔で快適な空間となるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差が無く、リビング・居室内・浴室には手すりも付いている。ベッドは利用者様の身体状況に応じて変更するようにしている。出来る事・出来ない事を把握して自然な声掛けをするようにしている。		